

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	独語第二		
英文授業科目名	Elementary German II		
開講年度	2004年度	開講年次	1年次
開講学期	2学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化基礎科目 I I		
開講学科・専攻	システム工学科		
担当教官名	齋藤 智志 (学内連絡教官 坂本 真樹)		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
saitohsa@xa2.so-net.ne.jp	

<b>【主題および達成目標】</b>
ドイツおよびドイツ語圏の国々の文化や歴史に触れつつ、ドイツ語の基礎的な文法や表現の修得を目指します。独語第一と独語第二が終了すれば、簡単な文章の読み書きができるようになっているはずです。

<b>【前もって履修しておくべき科目】</b>
なし

<b>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</b>
独語第一

<b>【教科書等】</b>
教科書：大岩信太郎著『純・初級ドイツ文法』（同学社）辞書：辞書は当然必要です。初めて学ぶ言語においては、辞書の引き方も重要な学習事項です。収録語数が5万語以上の独和辞典を選んでください。

<b>【授業内容とその進め方】</b>
扱う文法事項は以下の通りです。1単元を1回から1回半程度で終わらせます。1．未来形、話法の助動詞 2．分離動詞、ZU不定詞 3．動詞の三基本形、過去人称変化、現在完了形 4．再帰動詞と再帰代名詞 5．形容詞の格変化、形容詞の名詞化 6．比較級と最上級、命令法 7．関係代名詞 8．受動態、非人称のES 9．接続法 文法の解説を終えた単元の問題演習を翌週までの宿題とします。したがって、ほぼ毎週（量はそれほど多くはならないはずですが）宿題が出ると考えてください。また、ドイツおよびドイツ語圏の国々の文化や歴史に関して、学生諸君に発表をしてもらいます。人数が多ければ班を編制し、一月に一人（ないし一班）ぐらいのペースで発表してもらおう予定です（独語第一からの継続です）。

## 電気通信大学 平成16年度シラバス

### 【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

1. 成績評価 = 出席を含む平常点 (25%) + 学期末のテスト (60%) + 発表 (15%) 独語第一で発表した人は、それをこちらの成績に組み入れます。2. 評価基準: 1で示した式の合計点が60以上であることを合格の最低基準とします。

### 【オフィスアワー: 授業相談】

特に設けません。質問等は電子メールで受け付けます。

### 【学生へのメッセージ】

大学は「自ら」学ぶ場所です。諸君はその「権利」を得たのです。ジャンルを問わず貪欲に知識を吸収してください。

### 【その他】